

製品名: ATG5 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81461**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	32.4kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG5
別名	ASP; APG5; APG5L; hAPG5; APG5-LIKE
遺伝子 ID	9474.0
SwissProt ID	Q9H1Y0
免疫原	ヒト ATG5 の合成ペプチド (AA: MTDDKDVL RDVWVGRic)。

背景

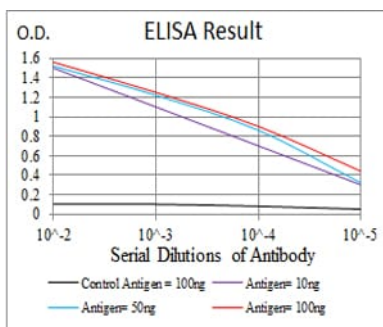
ATG5 はオートファジー小胞の形成に関与する。ATG7 を E1 様活性化酵素、ATG10 を E2 様結合酵素とするユビキチン様結合系を介して ATG12 と結合することが、その機能に必須である。ATG12-ATG5 結合体は、ATG8 ファミリータンパク質の脂質化と小胞膜への

結合に必要な E3 様酵素として作用する。酸化損傷後のミトコンドリア品質管理、およびそれに続く細胞寿命に関与する。また、ATG12-ATG5 結合体は、RARRES3 および MAVS との直接的な結合を介して I 型インターフェロン産生経路を阻害することにより、自然抗ウイルス免疫応答を負に制御する。さらに、ウイルス RNA の翻訳、または翻訳装置への送達にも関与する。リンパ球の発達の様々な側面において重要な役割を果たし、B リンパ球と T リンパ球の両方の生存と増殖に不可欠である。MHC II に対する抗原の最適な処理と提示に必要。軸索形態と膜構造の維持、ならびに正常な脂肪細胞分化に関与。中心小体サテライトからの OFD1 の除去とオートファジー経路を介した IFT20 の分解を通じて一次繊毛形成を促進する。

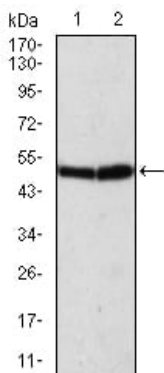
研究分野

オートファジー、アポトーシス

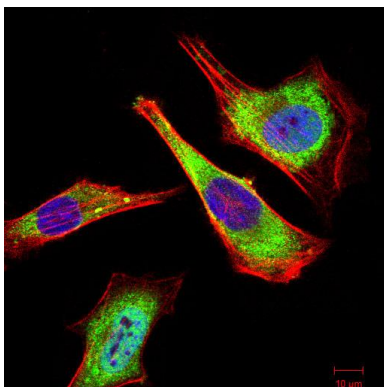
画像データ



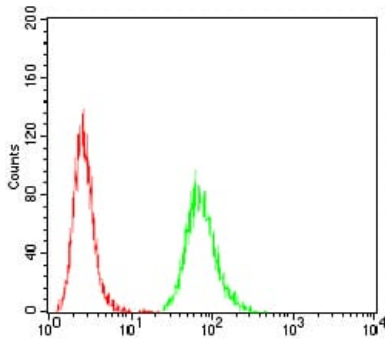
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



Hela (1) および K562 (2) 細胞溶解物に対する ATG5 マウス mAb を用いたウエスタンブロット分析。



ATG5 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



ATG5 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。